

編集後記

今月号の“特集”は「動作分析」と題して医用工学者、それも日頃リハビリ医学関係の分野でお仕事をされている方々を中心に執筆いただきました。山崎氏は動作分析の方法論を過去から現在にいたるまで総括的にわかりやすくまとめて下さった。岡田氏は上肢の機能分析に関する工学的アプローチについて触圧試験器などの新兵器を紹介して下さいましたが、動作分析といえは歴史的に歩行を中心とする下肢の動きが重点的におこなわれていた感もあり、上肢の分析という新しい分野での将来性を示唆しておられる。

土屋氏はリハビリ医用工学の先駆者として歩行分析法などの研究で“医”と“工”がどのように協力体制をつくらなければならないか、また、そのなかで“医”サイドのおちいりやすい盲点など具体的な例をあげて解説して下さい。小生も小さい床反力計を用いて歩行ステップを分析することに対して疑問をもっていたが、この論文によってそれらの問題点がうきばりにされ、医と工のより一層の連携の必要性が痛感された。小田他は今はやりのマイコンを用いて臨床的に簡便応用可能な歩行分析装置を紹介し、また、田中氏他は長年にわたって研究してこられた車椅子の動作分析を論じて下さったが、これまで経験的

につくられた車椅子に今後は科学的な検討が加えられていくと思われる。

“研究と報告”も最近には投稿も多くその質も年々向上している。長島氏他の神経伝導検査と温度との関係、また、宮森氏他の視空間失認とロールジャッパ・テスト、そして、窪田氏他のCVA患者の嚥下障害の問題など、さらには吉田氏他の屋外でのリハビリ訓練の必要性を説かれた論文など、その多くは日本のリハビリ関係者だけでなく、世界のリハビリ分野の人々に、おしえてあげたい文献と思う。そして「総合リハビリテーション」も原著には英文抄録をつけて、せめて日本のリハビリの一端でも世界に教える姿勢をとる時期にきていると痛感し編集会議で検討したいと考える。

今月から“講座”として「リハ医学の評価法」と「リハ医のための代謝疾患入門」がはじまり、それぞれの分野での第一人者に御執筆をおねがいしてある。乞御期待。

国際障害者年がおわり、これからその実践の年度に入るにあたり編集委員一同「総合リハ」をさらに一層よくするようにがんばる所存であります。読者諸兄姉からの御助言、御批判など、どしどしいただければ幸と考えている。(千野 直一)

次号予告(第10巻 第3号)

特集 職業評価

障害者の人々の「職業評価」

概観……………	大阪府立東大阪児童相談所	西川 実 弥
職業評価の方法と従事者……………	国立職業リハ	池田 勲
実施の施設・機関……………	東京心身障害者職業センター	西村 晋 二
結果の効用・効果……………	早大・理工学部	横溝 克 己
座談会「障害者の職業評価」……………	出席者/西村晋二・岩崎貞徳・大木 勉・初山泰弘<司会>小川 孟	

巻頭言 人を信ずることは人を救う

ことだ……………国立東京病院・リハ学院 矢谷 令 子

研究と報告 健康成人の Joint Laxity について……………熊大・理療部 岡部とし子・他

紹介 新潟大学病院における5年間のリハビリテーション・サービスについて……………新大・リハ部 北村由起子・他

講座 リハビリテーション医学の評価法

(2) 乳児の発達評価……………北療育園 中島 雅之輔

リハビリテーション医のための代謝疾患入門

(2) 糖尿病の診断……………東大・第三内科 小坂 樹 徳

一頁講座 社会リハビリテーション

(2) 対象と主体の特性……………同志社大・社会福祉 大塚 達 雄

印象記 第23回日本義肢装具研究会を聞いて……………川崎医大 明石 謙

第23回日本義肢装具研究会学術

展示より一最近の義肢装具……………自治医大 大井 淑 雄

ひ と 高木賞を受賞された五味重春博士……………小池 文 英

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水 野 祥 太 郎
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 壽 榮 夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
小 野 啓 郎
加 倉 井 周 一
河 邨 文 一 郎
小 島 蓉 子
五 味 重 春
斉 藤 正 也
笹 沼 澄 子
沢 村 誠 志
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
武 智 秀 夫
田 中 照 子
土 屋 和 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 欽
橋 倉 一 裕
長 谷 川 恒 雄
林 玉 子
福 井 園 彦
松 村 秩
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
(五十音順)

(細田, 山田)